

革新市政の記憶

美賀多台 つだわたる

神戸市役所で1978年4月～2022年3月まで働きました。2/3が阪神淡路大震災後です。その経験から現在の市政について書いてみます。

宮崎、笹山、矢田、久元の4市長の元で働いてきました。笹山時代の「参加と対話」という市政運営にいたく感動し、それを私の仕事や市民活動をする指針としてきました。

仕事は都市計画で住民のみなさんと話し合うことが大事でした。もちろん批判され意見が違ふこともあります。しかしそれも含めて活かそうと働きました。

今の神戸市ではコールセンターを民間に委託し、市民からの苦情電話を職員が直接受けるシステムになっていません。現役時代に担当した地域を訪れると住民の方から職員が現場に来る回数が減り「一緒に考えるスタンスがない」と言われました。

■職員参加を断ち切る■ 役所生活のほとんどで労働組合に関わってきました。当時の運動の重点は全職場全組合員を対象とした昼休み懇談会です。そこでは賃金等の労働条件だけではなく、仕事や職場の改善を求める意見交換を行い、職場ごとに要求書をまとめ交渉しました。それを繰り返すことで、職務権限は管理職にあっても担当職員の意見は配慮されてきました。福祉職場では新しい仕事に対して、必ず職員の意見をまとめて当局に要求を出していました。

2018年に労働組合は「違法専従問題」を批判されました。それ以降、神戸市は職務に関する意見、要求を聞かなくなりました。職場は正規職員を減員しながら再任用、臨時、派遣等と様々な雇用形態になっています。職場の親睦会がなくなり、全員が参加する歓送迎会や忘年会等も消えました。

さらに「成績主義」が導入され不当な評価にベテラン職員は「やる気」を無くしています。また市長の方針に異を唱える幹部職員は露骨な左遷人事を受けました。

その一方で主要ポストに国の官僚が増えました。上意下達が強くなっています。職場がバラバラになり上の意向ばかりを気にする、それが私の見方です。

■市民団体を支援する市政へ■

革新市政には様々な定義がありますが、私は市民の意見を聞くことが必要条件だと思います。映画『ボストン市庁舎』で民主党市長は市民に対し「私に電話してくれ」と呼びかけました。

市民、市民団体、地域団体を活発にすることが地方自治です。それを支援するのが行政の役割です。これが久元市政では切り捨てられています。

職員が自由にモノが言え、住民と協力しながら地域と暮らしを良くしていく、そんな市政運営を期待しています。

◆10月のつどい 10月26日(日)

コープこうべ「出前講座」

「コープでんきを通じた持続可能な社会づくり」

講師 鬼沢康弘さん 14:00～16:00

西区文化センター2階第1会議室 参加費 300円

※詳しくはチラシをご覧ください

◆神戸憲法集会 11月3日(祝) 13:30～

講演 アルティシアさん「ジェンダー知らなきゃやばい時代がやってきた！」 ※チラシ参照下さい
うはらホール(東灘区文化センター)

参加費 1000円 【主催:兵庫県憲法会議】

◆11月のつどいはありません

Act Now 1(イチ)の日行動にご参加を!

★毎月一回、西神中央駅前「改憲 No! 九条 壊すな!」のアピール行動を続けています

★次回は2025年11月1日(土)16:00～17:00



明るく元気に甲子園に響く校歌

もう4, 5年前からでしょうか、60年来の高校野球ファンである私は、甲子園球場で、勝利の時に韓国語で歌う京都国際高校の校歌に感動と励ましをもらっていました。今年の夏も同様に元気に校歌を韓国語で歌う姿に頼もしさを感じていました。以下は韓国語で書かれた校歌(私には韓国語で書くことはできません)日本語訳(学校訳)を紹介します。

東の海を渡りし 大和の地は
偉大な祖先 古の夢の場所
朝な夕なに 体と徳を磨く
我らのふるさと 韓日の学び舎

この曲を甲子園児がホームプレートに並んで韓国語で歌うのです。いうまでもなく球場はもとより、NHKを通して全国に響き渡るのです。

こうしたことに対してインターネットの掲示板に投稿される差別的用語を京都府、市が京都法務局に対して削除するよう要請しています。今日の朝鮮や韓国に対してのヘイトニュースの状況を見ると、そうしたことに屈しないで甲子園で生徒たちが明るく元気いっぱい校歌を歌う姿は、彼らの高校野球への打ち込みの凄さはもちろんのこと京都国際高校の教育のすばらしさを感じずにはいられません。ぜひみなさんも来年からの甲子園を味わってみてください。
(たけし)

ジョー句

お題「もしかして」

もしかして マイナに吸われる プライバシー (空耳)

自由題

総裁選 中身替わらず 包装紙 (現妻)

核戦争 入口あれど 出口なし (伝伝)

11月のお題は「ローン(借金)」

y-onishi@live.jp

に投稿お待ちしております。

9月つどい

「自衛隊神戸住民訴訟が 問いかけるもの」

自衛隊への名簿提供について松山英樹弁護士のお話を聞きました。

神戸市は、2020年より毎年、本人の同意なく、かつ、本人が拒否しても、自衛隊に対して、18歳及び22歳の

① 氏名、②住所、③性別、④生年月日

といった個人情報を、3万名分電子データで提供しています。これは、どんな点に問題があるのか?色々な角度から話していただきました。

○名簿提供は、2020年安倍内閣の時に、自衛隊法97条を根拠に閣議決定をしたことが、出発となっている。しかも、神戸市は、閣議決定前に、名簿提供を始めている。

○1954年に制定された自衛隊法では、基本的人権としてのプライバシー権利保障は、一切議論されていない。

○現在、全国で65%の自治体で名簿提供が行われている。

○明石市、さいたま市、広島市は、名簿提供していない。

○神戸市は、前のめりで進めている。(政令都市として、唯一自衛隊からの要請通りに4情報全て電子データで提供。ホームページで知らせていない、除外申請すら拒否)

感想の一部を紹介します。

★知らない間に個人情報が流れていることに恐ろしさを感じています。全てにおいて結果ありきで、解釈変更され、事が進んでいます。神戸市と政府が密着した状況がわかりました。この危険性を身近に伝え、自らも学んでいきたい。

★これは、大きな問題ですね。

★もっと市民に知らせなくては。

(角屋)



2025年10月発行：西神ニュータウン9条の会

[HP] <http://www.ne.jp/asahi/seishin/9jyonokai>

[連絡先] TEL 090-3359-0776(大西)



HPへリンク